

人格の陶冶をめざす教育方略の模索

吉田 浩己（鹿児島大学稲盛アカデミー長）

Development of new approaches to produce graduates who are self-improving and enterprising.

Director and Professor of Inamori Academy

I. 鹿児島大学稲盛アカデミーの教育目標

平成26年12月22日に中央教育審議会は、大学教育において、学生が修得すべき「確かな学力」を

- 1、基礎的な知識および技能
 - 2、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力
 - 3、主体性を持って多様な人々と協働する態度
- とまとめて答申いたしました。

また、鹿児島大学では、鹿児島大学憲章（平成19年11月15日制定）に基づき、我が国の変革と近代化を推進した先人たちの「自ら困難に果敢に立ち向かう態度すなわち『進取の精神』の修得・継承を鹿児島大学の教育的アイデンティティとして、重視して、平成23年12月15日に『鹿児島大学教育目標』を以下のように制定しました。

「鹿児島大学は、進取の気風にあふれる総合大学として、学生の潜在能力の発見と適性の開花につとめ、自主自律と進取の精神に有する人材の育成を目指します。そのために次の教育目標を掲げています。

1. 幅広い教養と高度な専門的知識。技能を身につけ、諸課題を発見・探求・解決する能力を育みます。
2. 豊かな人間性と倫理観を身につけ、向上心をもって自ら困難に立ち向かう態度を養います。
3. 地域における活動に積極的に関わり、社会の発展に貢献できる行動力を養います。
4. グローバルな視野をもち、国際社会の発展に貢献できる実践的な能力を育みます。」

中央教育審議会答申の『確かな学力』の1、2は、『鹿児島大学教育目標』の1、3、4に、『確かな学力』の3は、鹿児島大学教育目標の2と対応します。

一方、稲盛和夫名誉アカデミー長は、人生・教育の根幹は「人格の陶冶」であると喝破されておられます。稲盛名誉アカデミー長は著書『生き方』のなかで「人格は『性格+哲学』という式で表せると、わたしは考えています。人間が生まれながらにもっている性格と、その後の人生を歩む過程で学び身につけていく哲学の両方から、人格というものは成

り立っている。つまり、性格という先天性のものに哲学という後天性のものを付け加えていくことにより、私たちの『人格—心魂の品格—は陶冶』されていくわけです。したがって、どのような哲学に基づいて人生を歩んでいくかによって、その人の人格が決まってくる。では、どのような哲学が必要なのかといえば、それは『人間として正しいかどうか』ということであると述べられています。すなわち、『人格の陶冶』とは一人ひとりが、人間として正しい生き方すなわちその人の哲学をその実践のなかで追求し、進化させ、いかなる場合でも人間として正しい行動が取れるように自己研鑽することです。「道徳律や倫理観を自分の哲学や生き方の根っこに据えて不動のものにすることです」「人間として正しい生き方を志し、ひたすら貫きつづける。それが、いま私たちにもっとも求められていることではないでしょうか。それこそが、私たちの一人ひとりの人生を成功と栄光に導き、また人類に平和と幸福をもたらす王道なのです」と強調されています。

鹿兒島大学が、育成すべき人材のモデルとした、1865年、鎖国の中、英国へ留学した19名の薩摩の若者が、日本の近代化の大きな役割を果たしたのも、郷中教育等の中で、人格の陶冶に努める態度を若い時期に修得し、生涯にわたり人格の陶冶を継続し、人間として正しく生きることに、進取の精神を發揮し、果敢に挑戦したことによると思います。

かつて、世界の東西の教育機関では、教育の本質は、「人間自身を形成すること、人間を彼れ自身たらしめること、または、人格を陶冶する」ことであると認識し、「真理の探求」とともに「人格の陶冶」を重視した教育研究を展開し、数多くの優秀な人材を輩出しました。

日本においても、河合栄治郎は著書『学生に与う』（昭和15年発刊）なかで、「現実の自我は理想の自我たねばならない、たるべく努力せねばならない、これが『教養』と云うことである。教養とはあれかこれかと知識や芸術品を漁ることではない、知識や芸術の主体たる人間をいかにするかと云うことである。すなわち、教養とは人格を陶冶することである」と述べ、大学教育、特に、共通教育では、人格を陶冶する態度の修得が、大学教育、特に、共通教育の根幹であると強調しています。

ところが、現在の高等教育（特に大学）においては、教育中央審議会が答申した「確かな学力」の中の、1、専門知識や技能の修得に加えて、2、問題解決能力等の向上にはようやく重点的に取り組みを開始したところではありますが、豊かで、平和な人類社会の形成のための人材育成に、社会よりもっとも求められており、教育の根幹である3、『主体性』『人格の陶冶』『進取の精神の涵養』等の態度・志向の修得のための教育は極めて不十分で、実質的に軽視され、教育一般目標と行動目標を明確に定めた教育カリキュラムは極めて稀である。このような状況にある日本の大学教育では態度・志向を修得法（教育方略）は当然確立していず、このままでは、開発も極めて困難と思われます。

稲盛アカデミーは、このような状況のなかで、稲盛和夫名誉アカデミー長の哲学と鹿兒島大学教育目標および教育中央審議会答申や薩摩の教育の伝統に基づき、生涯にわたり「人格の陶冶」に努める態度の修得と自ら困難に果敢に挑戦する気概、すなわち「進取の精神の涵養」を教育目標にすることを平成25年に定め、平成25年度よりこの教育目標達成

に有効な教育方略の開発と実践、すなわち、先端教育に果敢に挑戦しています。

II. 人格の陶冶と進取の精神の涵養をめざす教育方略の模索

稲盛アカデミーは、平成27年度は、鹿児島大学の9学部の全ての学生を対象とする共通教育において、稲盛名誉アカデミー長の著書『生き方』『働き方』『人を生かす』『人生の王道』等を教科書として「思いを実現させる」「原理原則から考える」「利他の心で生きる」「心を磨き、高める」「宇宙の流れと調和する」などの稲盛哲学を学ぶ授業を開講しています。さらに、実社会の現場で、『人格の陶冶』に努め、『進取の精神』をもって社会の発展に貢献されている社会人をゲストスピーカーとして迎え、その方の生き様を学生へ直接ぶつけて頂く授業「進取の精神体験学習in鹿児島」、「進取の精神（世界平和と人類福祉）」、「進取の精神海外研修inベトナム」なども開講しています。稲盛アカデミーが開講するこれらの授業科目を鹿児島大学へ平成27年度に入学した新入生1950名内、994名約51%が受講します。受験生活を送ってきた彼らにとって、人間の「生き方」を真正面から考える初めての絶好の機会になると思います。

平成27年度前期（4月－7月）に開講した「進取の精神体験学習in鹿児島」を受講した138名学生のなかで、59名が稲盛哲学をさらに深く、体得し、自らの生き方を進化させるために、授業時間外の休日等に要介護高齢者ケアボランティア、造士館講座支援ボランティア、屋久島における人と自然の共生体験研修、地域農業体験学習、平和の鐘体験学習等に自主的に参加し、人生経験が豊かで、様々な人生観を有する地域の人々に揉まれて自己の研鑽に努めました。

このように、自主的に休日等にボランティアや体験学習に参加した者が59名いた点や参加した彼らの真摯な学習態度や眼差しから、人格の陶冶に本気で取り組みくむ気概を感じられたことより、これらの授業は、人格の陶冶に努める態度の修得と進取の精神の涵養には一定の効果があったものと評価しています。今後も、教育PDCAをしっかりと回転させ、より教育効果のある教育方略の開発に努めるなど、教育の改革と改善に邁進いたす所存であります。